



No.138
平成24年8月31日

議会広報

いえそん



- 一般質問…………… 2～7
- 意見書…………… 8
- 抗議決議…………… 9
- 議決の結果…………… 10
- 伊江村議会視察研修報告…………… 11
- 議会の活動…………… 12

▲一問一答方式導入に向け、議員で県議会傍聴を行った（県議会棟前にて）

いえそん No.138
議会広報

発行／伊江村議会
〒905-0592 沖縄県伊江村字東江前38
TEL:0980-49-2924
編集・印刷／(有)サンエス
TEL:098-889-7421

いえそん No.138
議会広報

議会の活動

平成24年6月

5日：議会広報調査特別委員会
7日：議会運営委員会
13～14日：第3回6月定例会
13日：伊江中学校ふれあい給食（全議員）
16日：郷友会主催親睦ゴルフ（全議員）
19日：議会運営委員会
23日：海神祭（全議員）
24日：伊江村郷友会総会
25日：伊江漁協総会（議長）
26日：太陽の花伊江支部総会（議長）
27日：議会運営委員会
28日：奄美・やんばる交流会（全議員）
29日：観光協会総会（議長）

▲伊江村郷友会総会

平成24年7月

1日：伊江中学校運動会（全議員）
4日：議会運営委員会
第4回臨時議会
5日：意見書・決議書の提出（全議員）※P8～9参照
婦人の主張大会（全議員）
8日：関東城会総会（議長）
10日：県議会傍聴（全議員）
11日：全国和牛能力共進会最終審査（全議員）
沖縄県防衛協会北部支部懇親会（議長）
12日：北部市町村議会議員・事務局研修会（全議員）
18日：議会運営委員会
27日：JA感謝のつどい（全議員）
創立50周年記念第43回北部地区老人クラブ大会（議長）
仲泊弘次氏旭日双光章受章祝賀会（副議長）
30日：伊江村和牛改良組合総会（議長）
30～31日：第76回全国町村議会広報研修会（内田竹保広報特別委員長）

▲意見書・決議書の提出

平成24年8月

8日：正副議長・正副委員長研修会
(亀里議長、渡久地副議長、内田総務委員長、知念経・公委員長、
友寄総務副委員長、山城経・公副委員長)
9日：ティダキッズプロジェクト交流会（議長）
10日：農協謝恩夏祭り（全議員）
22日：第5回臨時議会
23日：北部市町村議会議長会第2回定期理事会・総会（議長）

どうぞ
傍聴席へ

傍聴を希望される方
は、お気軽に議会事務
局までお問い合わせく
ださい。

TEL 0980-49-2924 (直通)

伊江村議会HPで
最新情報を！

この紙面に掲載された一般質問や質疑応答
の内容は、会議録に基づいて一部を要約した
ものです。
さらに詳しく知りたい方は、各区公民館、中央
公民館、村議会HPで会議録をご覧ください。

<http://www.iejima.org/iegikai/>
(伊江村のホームページからもアクセスできます。)

村政の6月定例会一般質問

ここを問う！

かお伺いしたい。

今後も本部町等の協力が得られるとは限らない。

今回提案の敷地は

県有地であり、沖

縄県の港湾課とも協議を

しなくてはいけない。

先ほども申し上げたが立体

駐車場の建設については、

北部連携も含めながら検

討していく。課題もまだ

ある。早めにやることは

やり、駐車場を確保した

い。



本部港での立体駐車場の建設について

島袋 義範 議員

建設課長／早めに関係機関に要請をしたい

問 本部港周辺には村民の車が常に200台から300台駐車されており、駐車場を確保するため村民や観光客の方は苦労している。夜露や雨に打たれ、台風時は塙害を受ける事だから、抜本的な改善策と

して、駐車場の建設は村民の財産を守ることになるのではないか。そこで、本部港反対側の現駐車場に、3階建ての立体駐車場を建設することで、本部港での駐車場問題の緩和が図られると思うが、どう考えている

問 問題解決のためには立体駐車場をぜひ建設すべきだと考える。これまで使用できていた港周辺は冷凍施設が建設され、これまで以上に駐車スペースが狭くなり、駐車場問題は深刻化している。今年の大型連休は本部町のご協力により、370台の駐車場が臨時に確保された。しかし、

問 平成24年度からの北部連携事業となると遅すぎないか。沖縄振興一括交付金は使途も緩和され、沖縄の実情に即した事業と書かれている。本部港立体駐車場の建設について、一括交付金を充てる事は的を射た事業だと考える。答弁の中で有料駐車場という言葉もでたが、村民の生活の面も考えて負担になら



伊江村フェリーの車航送運賃の低減について

仲宗根 清夫 議員

問 「沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業」により、旅客運賃が往復1,190円から400円になり、村民の負担が大幅に軽減された。車両運賃の軽減も村民の大きな要素であるが、村当局として車航送運賃の軽減についてどう考えているか。

答 補助のない単独事業として実施する

ことは、船舶運航事業の

経営に影響を与えるので、車両航送に係る運賃の軽減は今のところ困難だと考へている。

問 国・県の補助でできなか、ぜひ調査をお願いしたい。船賃が安ければ、島から自家用車を持ついく人も多いと思う。それにより、本部港の駐車場の件も変わってくると思うので検討できないか。

答 補助のない単独事業として実施する

ことは、船舶運航事業の

経営に影響を与えるので、車両航送に係る運賃の軽減は今のところ困難だと考へている。

問 商工観光課長／伊江島の表玄関として必要だと認識している

との協議を考えているか伺いたい。

答 港は伊江島の表玄関として、重要な飲食の場であった。閉店が続くと伊江村全体が寂れたイメージを与え兼ねないかと危惧している。

村としては、新規出店者の公募や商工会・観光協会・漁協を含めた団体等

答 住民の交通の利便性を図ることは大事だが、公営企業としての経営、フェリーぐすくの建造計画を考えた場合、単独事業での軽減負担は非常に難しい。幸い類似する村で、市町村配分の一括交付金を活用して車両航送料を軽減できないかということを、調整しているところがあるようである。その動向も見ながら検討したい。

問 伊江港ターミナル内の喫茶ゆりの空店舗対策について

農林水産課長／希望する農家があれば今後、協議していきたい

しいたけ菌床栽培は技術的に本村でも可能だと考へる。しかし、いくつかの課題がある。その課題を克服し、生産に向けて実現できるか、県の関係機関と調整、調査を行っていきたい。しいたけ栽培を希望する農家があれば、今後協議していきた

い。

含め、一括賃貸契約を締結している伊江島物産センター株式会社も含めて協議をしているところであります。

今後の利用については、

村内の団体と当該施設を

ない金額にしてほしい。できれば無料にしていただきたい。そういう配慮も必要ではないか。

答 一括交付金ででき

るかについて、県

とも話し合わなくてはい

けない。どういった事業

でどのくらいの費用が伴

うのか、いろんな角度か

ら知恵をだしながらやつ

ている。前向きに対処し

ていけるよう県とも話

ていきたい。

駐車料金についても、本部町と伊江村の両行政で進めなければならない問題だと思っている。前向きに対処していくよう県とも話したい。

駐車料金についても、本

部町と伊江村の両行政で

進めなければならない問

題だと思っている。前向

きに對処していくよう県

とも話したい。

村政の6月定例会一般質問

ここを問う！



内田 竹保 議員

堆肥製造場の運用について

農林水産課長／適正価格で販売供給できるよう協議を重ね決定したい

問 堆肥製造場は、今から稼働開始だと伺つて設備が完了し、来年4月そこで次の点についてお聞きしたい。

- ①運営方法は当局直営か
- ②職員の研修が必要と考える派遣は何時頃か。
- ③畜産農家からの生堆肥の購入方法は。
- ④製品の単位（袋）数量

は何種類か、また販売価格は。

答 ①村直営で運営をする。②時期は8月頃、期間は1カ月必要だと考えている。③原料の購入方法として2種類検討している。一つは現金で買い取る方法。受け入れる際の水分率に応じて単価を設定する。二つ目はふん貯システムによる購入。水分率80%の上

また、フレコンバックの堆肥1トン袋だが、300キロや500キロを作る方法はないか。1トン袋のみでは大型の機械が必要になる。再度検討する必要がないか。

答 当初24年度で実施する予定だったが、県の交付決定が遅れたため、研修が今年になつた。フレコンバックの数量だが、堆肥の比重は軽く、

平成23年度に与論員を3カ月間派遣する準備をしているということだつたが、なぜ今年になつたのか。

問 堆肥センターへ職員を3カ月間派遣する準備をしておいたが、なぜ今年になつたのか。

答 下において製品還元率を設定し、畜産農家へ還元する方法。④製品の単位として2種類検討。一つ、15キロ、二つ、フレコンバック堆肥は1トン袋を使用する。販売価格は双方とも決定していない。畜産農家や関係団体と協議を重ね決定したい。

500キログラムしか1トン袋には詰められない。そのため容量として500キログラムということで今年は予定している。



堆肥センター全体イメージパース

ハブ対策について

商工観光課長／遊歩道両サイドのネット設置は考えていない

問 沖縄県において、5月1日から6月30までの期間、ハブ咬症注意報が発令されており、年間咬症患者が約100名出ていると聞い、この時期ハブ出没が多数あるとの情報もある。この時期ハブ出没する予定だが、伊江ビーチキャンプ場南側護岸付近で、アダン撤去作業したところハブが7匹捕殺されている。伊江ビーチキャンプ場南側護岸付近で、アダン撤去作業したところハブが7匹捕殺されている。

答 旅行村全域の遊歩道両サイドにネットを設置し、侵入防止策を講ずるのも方法ではないかと考える

確かにウォーキング等の安全対策に有効だと思うが、観光面を考えた場合、ネットを設置に対する観客の違和感、危険回避が旅行村への来場を控える可能性が高い。遊歩道への設置は考えていない。

問 確かにウォーキング等の安全対策に有効だと思うが、観光面を考えた場合、ネットを設置に対する観客の違和感、危険回避が旅行村への来場を控える可能性が高い。遊歩道への設置は考えていない。

答 確かにウォーキング等の安全対策に有効だと思うが、観光面を考えた場合、ネットを設置し、合わせて随時除草を進め、施設内の環境美化とハブ進入対策等に努めたい。

離島高校生修学支援事業について

教育長／県が経費の一部を負担するなら見直しも検討したい

問 文部科学省は今年度から高校のない離島高校生の通学費や居住費、一人当たり年額15万円を上限に教育費の補助制度を開始、本村でも今年度予算に2256万円が計上されている。本村の見解について3点伺いたい。

- ①他町村との補助額に差異（伊江村年額12万円、他町村年額15万円）があるが見直しの検討が必要ではないか。
- ②教育格差是正の観点から県も積極的に支援すべきだと思うが、現時点での見解はどうか。
- ③他村で検討されている一人暮らし生徒の生活支援員の配置について検討できないか。

1点目、県が経費の一部を負担するのであれば、見直しを検討したいが、現時点では当初予算どおり1人あたり年額12万円での支援を進めたい。2点目、県に確認したところ、現時点では方向性が決まっていない状況で、9月補正をめどに市町村や保護者にどういった支援ができるのか検討中とのこと。3点目、本村の高校生は188人おり、県内30校余りに在学している。他村で検討している24時間体制の生活支援員については、現在厳しいと考えている。

雨水の圃地内流入防止対策について

農林水産課参事／圃場内へ流入しないよう対策を講じていきたい

問 降雨による圃場内への雨水の流入による農作物への被害が毎年のように見られる。村としても対策はしていると思うが、既存の排水施設では間に合わない地域もある。個人では対処でききない状況の箇所について行政の取り組み、支援が必要と思うが2点伺いたい。

答 県営、団体営農地への浸透池の設置及び圃場内溜り水防止対策（重機による浸透池掘削）の一括交付金を利用した事業化。

対策として未舗装道路への浸透池の設置及び圃場内溜り水防止対策（重機による浸透池掘削）の一括交付金を利用した事業化。

問 降雨による圃場内への雨水の流入による農作物の被害

答 アマギ溜池の工事に伴い、東側集水路から直接アマギ溜池へいくので相当緩和されると思う。



▲雨水の流入による農作物の被害

①伊江島空港より流出する南側圃場への抜本的対策。

②圃場内へ流れ込む雨水

内間 広樹 議員

内間 広樹 議員

(5) 2012年8月 No.138 議会広報 いそん

村政の6月定例会一般質問 ここを問う！



山城 克己 議員

集落内排水溝について

建設課長／他の課とも調整し早急に対処していただきたい

問 コーラル舗装道路からアスファルト舗装道路に変わる頃、排水溝を設置するのとしないのとでは舗装道路の距離が変わることで、社会情勢や村民からの要望で排水溝を設置せず、道路を整備した経緯がある

と聞いています。そこで、生活環境を改善推進するため、周囲に側溝がないところでも、現状を見て、何よりも最優先として、地域住民からの側溝要望については、要望箇所を十分精査し地形的状況や財政面等を検討し対処したい。

問 集落内の道路で約80本、距離にして20キロという答弁だが、これは実際に現場を見てきたがそれとも図面上での調査か。

今回、一般質問するにあたり、4箇所の公民館、区長や書記から聞き取り調査を行った。その中で、伊江島でも床上浸水があるということがわかった。20年以上前、家の前に道路を舗装する話があり、側溝を作つて欲しいという要望があつたが、会合

答 1点目、未排水溝道路は村管理の村道で約80本、距離にして約20キロメートル。全体距離の約12%になる。次計画については策定していない。今後の改善策として、地域住民からの側溝要望については、要望箇所を十分精査し地形的状況や財政面等を検討し対処したい。



名嘉 寛 議員

障がい者が村外に出る時の車両航送料金の軽減について

問 船賃は、今年4月から3分の1に軽減された。しかし、車両について軽減はない。弱い立場にある障がいを持つ方が、一般の村民同様の恩恵を受けられるようになるために、障がい者本人や家族が所有する車両航送料金の軽減をするべきだと思うが。

答 障がい者の車両航送料金の軽減について調査した限り、実施しているところは探し難かった。車両航送料金の軽減について本村で実施できるかは、今後の課題として検討していただきたい。

問 船賃は、今年4月から3分の1に軽減された。しかし、車両について軽減はない。弱い立場にある障がいを持つ方が、一般の村民同様の恩恵を受けられるようになるために、障がい者本人や家族が所有する車両航送料金の軽減をするべきだと思うが。

答 総務課の計算によると、船賃の軽減で村の一般会計で630

万円程予算が浮いた。一般会計で助成する気があれば、財源的に問題ないのでは。また、車両航送料金の軽減を実施しているところはないということが、他にないなら伊江村が第1号になつてもいいのではないか。

障がい者（児）計画では公共交通機関のない地域における移送サービスの確保は課題になつていて、船舶の車両航送料金の軽減については課題とされても挙げられていない。ぜひ、障がい者の方の車両運賃の軽減をしていただきたい。

答 十分県の関係機関とも検討をし、調整する必要があると思う。いろんな方向から検索しながら、今後の対処をしていただきたい。

問 パイプハウスの建て替え、増設について

農林水産課長／既存の補助メニュー一括交付金を活用できない

問 村の単独補助事業で園芸用パイプハウス建て替えがすんでいるが、まだ老朽化したハウスが残されている。一括交付金を活用し、パイプハウスの建て替えを希望する農家の要望に応えるべきだと思うがどうか。

答 既存の補助メニューがある事業では一括交付金を活用することはできぬ。パイプハウスの立て替え事業については、国・県の特定地域経営支援対策事業等がある。何点か条件はあるが、農家の要望があれば協議、調整を十分に行い、県に働きかけたい。

問 農家から希望がある事業から希望がある事業でも、県のメニューは面積が広すぎて活用できなかつた。生産部会がないもの、マングーハウス、葉たばこの苗床ハウス等、補助事業があれば作りたい人はいる。そういう方々についても対象にできるようにしていただきたい。

答 農家から希望がある事業等は十分できると思う。個人のハウス等の施設の事業の採択については、今後、県に問い合わせて働きかけていきたい。

に参加できなかつたため、要望は伝えなかつた。その後道路ができてから毎年のように床上浸水が始まつたようである。この集落内の側溝については直接生活に関わる問題として、何よりも最優先して対処すべき問題ではないか。

現在の状況がひどくなつていていることもあり、地形的な状況も先ほどの場所についても、周囲に側溝がない地区である。今でも20年前と同じ状況なのか確認しながら早急に対処をしていただきたい。今後他の課とも調整しさらに府議でも検討したい。

答 現場も把握しながら、さらに図面に明記をしている。基本的に現場の確認はしているつもりである。

さきほどのお宅は20年前よりも周辺の舗装道路と住宅が整備され、水が勢いよく流れてくれるそうである。

答 現場も把握しながら、くなつていてこともあり、地形的な状況も勘案しながら、早急に調査して進めていただきたい。年次計画についても、この事業に沿つよくなメニューがあるか精査し、大切なことだと考えて今後検討したい。

答 現場も把握しながら、くなつていてこともあり、地形的な状況も勘案しながら、早急に調査して進めていただきたい。年次計画についても、この事業に沿つよくなメニューがあるか精査し、大切なことだと考えて今後検討したい。

新しく作る道路や改修する道路予算を回しても、集落内の生活環境を改善するほうを優先すべきではないか。

抗議決議

普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備及び 伊江島補助飛行場での同機の訓練計画の撤回を求める抗議決議

6月14日の新聞報道によるとMV22オスプレイの普天間飛行場への配備に際し、本村における年間訓練回数が、現在のCH46中型輸送ヘリコプターの2.3倍の6,760回に増えることが明らかになった。

また6月30日の新聞報道によると、米政府は6月29日にMV22オスプレイの米軍普天間飛行場への配備を日本政府に正式に通告する「接受国通報」を行った。森本防衛相は、6月30日に来県しオスプレイを7月下旬に米軍岩国基地（山口県）に搬入し10月初旬から普天間で本格運用すると説明した。このことはオスプレイ配備に反対する沖縄県民の意志を無視し、愚弄するものである。

同機は、開発段階から事故が相次ぎ、今年の6月14日（日本時間）にも米国のフロリダで5人の負傷者を出す墜落事故を起こしたばかりであり、安全性の問題が強く指摘されている。

米国の環境審査の詳細データによると、MV22オスプレイの伊江島補助飛行場における訓練回数の大幅な増加も見込まれていることから、村民の命を危険にさらすものであり、到底容認することはできない。

村民は戦後67年もの長い間、米軍基地の重圧に耐え、基本的人権が踏みにじられ、生命、財産が脅かされるなど、生活環境も著しく阻害されてきた。

今回の計画は、本村上空に危険極まりないオスプレイが飛行することであり、村民に騒音被害、墜落の危険と死の恐怖を押し付けるもので、村民は困惑と不安や不信、怒りをいだいており、激しい憤りを禁じ得ない。又、基地と隣接する地域住民からもMV22オスプレイ配備に反対する切実な願いが数多く寄せられており、平和を願う村民に対しての冒涜と蔑視以外の何物でもなく激しい怒りを感じる。

よって、本村議会は、村民の生命、財産、日常生活の安全と平穏を守る立場から抗議するとともに、下記事項について強く要求する。

記

1. 日米両政府は、MV22オスプレイの普天間飛行場配備計画を即時撤回すること。
2. 日米両政府は、MV22オスプレイの伊江島補助飛行場での訓練計画を即時撤回すること。
3. 日米両政府は、沖縄県の基地負担軽減を着実に実施すること。

以上、決議する。

平成24年（2012年）7月4日

沖縄県国頭郡伊江村議会

あて先：米国大統領、米国務長官、米国防長官、駐日米国大使、在沖米国総領事

意見書

普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備及び 伊江島補助飛行場での同機の訓練計画の撤回を求める意見書

6月14日の新聞報道によるとMV22オスプレイの普天間飛行場への配備に際し、本村における年間訓練回数が、現在のCH46中型輸送ヘリコプターの2.3倍の6,760回に増えることが明らかになった。

また6月30日の新聞報道によると、米政府は6月29日にMV22オスプレイの米軍普天間飛行場への配備を日本政府に正式に通告する「接受国通報」を行った。森本防衛相は、6月30日に来県しオスプレイを7月下旬に米軍岩国基地（山口県）に搬入し10月初旬から普天間で本格運用すると説明した。

このことはオスプレイ配備に反対する沖縄県民の意志を無視し、愚弄するものである。

同機は、開発段階から事故が相次ぎ、今年の6月14日（日本時間）にも米国のフロリダで5人の負傷者を出す墜落事故を起こしたばかりであり、安全性の問題が強く指摘されている。

米国の環境審査の詳細データによると、MV22オスプレイの伊江島補助飛行場における訓練回数の大幅な増加も見込まれていることから、村民の命を危険にさらすものであり、到底容認することはできない。

村民は戦後67年もの長い間、米軍基地の重圧に耐え、基本的人権が踏みにじられ、生命、財産が脅かされるなど、生活環境も著しく阻害されてきた。

今回の計画は、本村上空に危険極まりないオスプレイが飛行することであり、村民に騒音被害、墜落の危険と死の恐怖を押し付けるもので、村民は困惑と不安や不信、怒りをいだいており、激しい憤りを禁じ得ない。又、基地と隣接する地域住民からもMV22オスプレイ配備に反対する切実な願いが数多く寄せられており、平和を願う村民に対しての冒涜と蔑視以外の何物でもなく激しい怒りを感じる。

よって、本村議会は、村民の生命、財産、日常生活の安全と平穏を守る立場から、下記事項について強く要求する。

記

1. 日米両政府は、MV22オスプレイの普天間飛行場配備計画を即時撤回すること。
2. 日米両政府は、MV22オスプレイの伊江島補助飛行場での訓練計画を即時撤回すること。
3. 日米両政府は、沖縄県の基地負担軽減を着実に実施すること。

以上地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成24年（2012年）7月4日

沖縄県国頭郡伊江村議会

あて先：衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方担当大臣、外務省特命全権大使（沖縄担当）、沖縄防衛局長

◆◆◆◆◆伊江村議会視察研修報告◆◆◆◆◆

①県議会視察研修

平成24年7月10日(火)(参加者/議員・事務局)

一問一答方式の導入に向けた視察研修で、県議会の一般質問を傍聴した。

当日、3名の県議会議員の方々の持ち時間内にての質問や、時間の使い方等を拝聴した。

伊江村議会において、現行の一括質問・一括答弁には回数制限があり、「一議員一議題3回を超える事が出来ない(伊江村議会会議規則55条)」を改正し、質問・質疑の論議を時間制限の範囲内でより深めることを目的として、一問一答方式の検討を行ってきた。

今年度9月定例議会からの導入に向けて、さらに調査、研究をすすめ村民の付託に応えるよう努めていきたい。



▲県議会を傍聴する議員

②北部市町村議会議員・事務局研修会

平成24年7月12・13日(木・金)(参加者/議員・事務局)



伊是名村にて北部12市町村の議員・職員約160名参加のもと、「目指すべき やんばるの人材育成」と題し、今帰仁村古宇利島出身の玉城英彦氏(北海道大学教授)の講演があり、北部広域圏の小・中・高・大学生の教育意欲、水準を高める教育文化の向上にむけて、2022年度を目指して若者1万人海外留学計画(案)をテーマに、世界で活躍できる青少年の人材育成、英語立県沖縄のモデル地区として取り組んでいただきたいとの提言があり、「教育への投資は未来への投資」と述べられ講演された。

その後、ときわ(永久不变)の島、伊是名村の歴史と文化を視察し、親睦スポーツ・レク大会(グランドゴルフ)では、亀里議長が見事優勝、また交流会では仲宗根議員がカラオケを披露し、議員・職員とも有意義な研修会となり、今後の議員活動に活かしていきたい。

③第76回全国町村議会広報研修会

平成24年7月30・31日(月・火)(参加者/内田竹保議員(広報特別委員長)・事務局)

議会広報の編集技術向上に資するため、2日間にわたり広報研修会に参加した。全国145町村からたくさんの方が参加され、活発な質問等が行われた。

今回の研修で各講師が共通して述べられていたことは、「自分たちが伝えたいことではなく、読者に分かりやすく読みやすい編集をすることが重要である」ということであった。

広報を編集するに当たっては、つねに読み手のことを意識し、読み手が読んで「理解できるか」、「読みやすいか」を推測しながら編集する姿勢が大切であることを認識した。

今後も、編集技術の向上に励み、紙面の改善を図りながら議会広報の充実に努めていきたい。



▲第76回全国町村議会広報研修会に参加した内田議員

④正副議長・正副委員長研修会

平成24年8月8日(水)(参加者/亀里敏郎議長、渡久地政雄副議長、内田竹保総務常任委員長、友寄祐吉総務常任副委員長、知念一邦経済・公営企業常任委員長、山城克己済・公営企業常任副委員長)

沖縄県町村議会議長会主催による研修会がちゃんとニライセンターで行われ、正副議長、正副委員長、事務局が参加した。

1部の研修では「沖縄県議会における議会改革の取り組みについて」と題して、沖縄県議会事務局長の嘉陽安昭氏による講演が行われた。

議決の結果

平成24年第3回定例会

議案番号	件 名	議決結果
報告第5号	真謝地区集会施設建設工事(建築工事)の専決処分の報告について	報告
報告第6号	平成23年度伊江村一般会計繰越明許費繰越計算書	報告
承認第1号	専決処分した伊江村税条例の一部を改正する条例の承認を求めることについて	承認
承認第2号	専決処分した伊江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の承認を求めることについて	承認
議案第23号	平成24年度伊江村一般会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第24号	平成24年度伊江村診療所特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第25号	平成24年度伊江村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第26号	平成24年度伊江村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第27号	平成24年度伊江村水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第28号	西小学校校舎改築関連備品購入の契約について	原案可決
議案第29号	伊江村コミュニティ施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第30号	真謝地区集会施設の指定管理者について	原案可決
議案第31号	伊江村暴力団排除条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第32号	伊江村火災予防条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第33号	伊江村出産待機時の宿泊料の助成に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第34号	伊江村母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第35号	住民基本台帳法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例	原案可決

議決の結果

平成24年第4回臨時会

議案番号	件 名	議決結果
意見第1号	普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備及び伊江島補助飛行場での同機の訓練計画の撤回を求める意見書(案)	原案可決
決議第1号	普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備及び伊江島補助飛行場での同機の訓練計画の撤回を求める抗議決議(案)	原案可決